

Memento

知りたいあなたのための 京都の部落史（超コンパクト版）その1 膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために

灘本昌久

はじめに

長い間、部落差別・同和地区の起源は、次のように語られてきた。江戸幕府によって「士農工商」の下に「穢多・非人」身分が作られ、武士階級は農民たちの反抗を下にそらせて民衆を支配したと。ピラミッド型の図を描いて、それを5つにスライスした最底辺が賤民だというわけだ。しかし、この「近世政治起源説」といわれる説明は、もはやまったく過去のものとなり、被差別部落の起源をもっと古い時代に遡らせる「中世起源説」が研究者の間では主流になっている。

近世政治起源説が力をもった背景には、政治権力によって作られた差別・貧困は、政治の力によって＝同和事業を強力にすすめることによって解決すべきだという、1950年代以来の部落解放運動の路線と整合的であったという事情があった（この事情については、師岡佑行『戦後部落解放論争史』第2巻を参照のこと）。そしてその箱物中心の同和事業が歴史的役割を終え、地域社会における人と人との関わりという社会関係に部落解放運動の課題が移っていきこうとしている時にあたり、民衆の生活の中からどのように被差別集団が生み出されてきたかを注視する中世起源説が台頭してき

たのは、偶然ではない。

しかし、従来の近世政治起源説から中世起源説に見方を変えるということは、単に成立年を何百年か遡らせるということだけにとどまらず、「差別迫害＝暗黒の部落史」像からの大きなイメージチェンジを伴うことなので、旧来の部落史になじんでいる多くの人々をとまどわせ、路頭に迷わせている観なきにしもあらずである。特に当資料センターの前身である京都部落史研究所は、近世政治起源説からの転換を早くから追求してきており、多くの専門家が膨大な研究を蓄積してきている分、旧説とのギャップが大きく、なかなかやりつきがたいものがあった。

そこで、本稿ではその橋渡しをすべく、ごく簡略に京都の部落史を紹介したいと思う。もっとも、中世起源説とはいっても、いまだまとまった体系になっているわけではなく、諸説紛々たる状況なので、以下のべることは末尾の文献などをつぎはぎしての不十分なスケッチに過ぎないことをお断りしておく。

古代賤民制の崩壊と中世「非人」の登場

古代律令制のもとでは、最下層の身分として「五色の賤」が定められていた。部落史研究がほとんどなき

れていない時代には、この古代の賤民が現代の部落差別の淵源ではないかという考えもないではなかったが、現在はそうした説はとられていない。古代国家の衰退とともに、良民と賤民の間の通婚が増え、また逃亡する奴婢もあとを絶たなくなると、907年の延喜格（律令の補助法）で「奴婢の停止」が定められたことにより、制度的に消滅した（『京都の部落史』[3-93],[10-533]に奴婢に関する多数の項目あり）。

それにかわって登場するのが、中世の「非人」である（江戸時代の非人とは別の概念）。古代の奴婢は計帳（税金台帳）に記載されていることからわかるように、社会内の最底辺であるのにならして、中世非人は、一般の人が円の中に入っているとすると、その円の外側にはじき出された人たちである。「非人」の語は古くは罪人をさしていたようであるが、中世には不具（身体障害者）や癩者（ハンセン病者）が村から追放されて非人に身を落とし、また役務に徴発され病氣などで故郷に帰れなくなった人、領主の苛斂^{かれんちゆうきゆう}誅求で村を立ち去った人など、多くの人が社会外に流出した。想像をたくましくすれば、官庁のリストラで職を失った官人（盗賊には官人の子弟が多くみられたという。山本尚友『被差別部落史の研究』22頁）、あるいは度重なる戦で敗れ傷ついた侍なども、行き場を失えば、非人に身を落とすしかなかっただろう。要は、後の江戸時代のように平和で安定した時代とちがいで、古代国家の解体期から戦国時代にかけては、一般社会の枠組みから離脱して非人に身を落とす人が、膨大な数にのぼったのである。

触穢思想と検非違使

非人が広範に登場したときに、人々をとらえて放さなかったものに、穢れを忌む「触穢思想」というものがあつた（横井清『中世民衆の生活文化』）。これは、病氣や天変地異など世の中の悪いことは、「穢れ」によって生じる。そして、その穢れの発生源は、人や動物の死、お産、女性の生理、および犯罪などであるというものである。重大な犯罪が穢れを生むというのは、

現代人からは想像しがたい感覚であるが、人の死はもちろんのこと、お産や女性の生理から穢れが発生するというのは、大正生まれまでくらの世代にはかなり濃厚にあつた感覚である。こうした穢れ感が「穢れ多し」=穢多として部落を差別する感覚に通じているのはいうまでもない。近代になつても、部落民の払う硬貨をじかに受け取らずに、ひしゃくに受けて水がめに入れたり、部落民にだけ特別の茶碗（欠けていて判別できる）を使用したりしたのは、こうした穢れを忌む感情の残存である。

京にあつては、穢れの処理を統括していたのが、検非違使であつた（検非違使は、律令体制の規定にない官職=令外の官である）。今の感覚からすると、警察業務と保健衛生業務を兼ね備えているような役職であるが、当時は犯罪の取締りと公衆衛生が穢れの処理として一体化してイメージされていたようである。検非違使は、犯罪の取り締まり、刑の執行、人間や動物の死体の取り片付けを、もっぱら非人を手足に使うことによつて実施していった（丹生谷哲一『検非違使』）。

中世非人の集団形成

非人は、生活の術を失つた人たちであるので、とりあえずは食を乞う=乞食をして生きるしかなかったのであるが、そこからの脱却をはかつた。その方法のひとつが、穢れの処理=「キヨメ」を中心とした仕事の確立および、関連産業の開拓である。ふたつめが、自分たちをばらばらの個人から集団にまとめあげ、同時に公家・寺社・武家といった権門勢家といわれる支配グループの保護下に入ることによつて、その権利を守り、伸張するというやりかたである。

中世非人の中で、最も古い集団は、宿^{しゆく}（夙）といわれるグループである。宿は、京都から奈良にかけて古くから分布する集団で、後に「清水坂非人」と称される人々が、1010年ころより史料上ちらほら見られるようになる。彼らは、祇園社の境内や洛中を「清める」仕事を獲得する。この場合、清めるといっても、行き倒れの人を取り片付けることから、税金滞納者の取締

りまで、広範な職務を含んでいる。この坂非人を保護しているのは祇園社であるが、その背後には比叡山という強力なバックが控えている（『京都の部落史』[1-66]）。坂非人は、寺社勢力の退潮とともに、武家をバックに持つ河原者にとってかわられるが、祇園祭の際にその先導をつとめる姿は、1550年ごろの風景を描いたとされる『洛中洛外図屏風』（上杉本）にもみえている。

この宿に遅れて姿を現すのが、「清め」あるいは「河原者」といわれる集団である。1275年の『名語記』に現れるのが早い例であるが、京都では太閤検地の時に関東で用いられていた「かわた」という呼称が使われ（山本尚友『被差別部落史の研究』113頁）、江戸時代には「穢多」と呼ばれるようになる。

「清め」は、早い時期には検非違使に使われて、行き倒れ人の処理や刑の執行などにあたっていたが、後には斃牛馬の処理を手がけるようになった。その場合、死んだ牛馬を単に河原にでも埋めればよいのであるが、単に廃棄するのではなく、それを原料にさまざまな品物を製造するようになる。代表的なものが、皮革である。これは甲冑を製造するには不可欠のものであり、軍事物資のうちでも重要なものである。また、骨から作る膠にかわは当時としてはもっとも高性能の接着剤で、これも武具の製造には不可欠である。また、牛の胆のうにたまる胆石ごおう＝「牛黄」は、非常に高価な漢方薬であった。戦国大名が、自分のもとの出身地から移動して城下町を作る場合、しばしば出身地のかわたを呼んで特権を与え、皮革の納入を義務付けたことはよく知られている。この時の、武士とかわたの関係は、防衛庁とミサイル部品納入業者のようなものであって、相当の信頼関係がありこそすれ、悪意や敵意があるわけではない。発生当初は、時々必要に応じて動員される自由な労働力であった人々も、ここにきて特殊技能集団という点で厚遇されるようになったのである。この他、清掃から派生して、公家・寺社に出入りの「清め」は「庭者にわもの」と称され、庭造を営む者も多くでた。將軍足利義政に厚遇された善阿弥ぜんあみや、竜安寺の石庭

を築造した庭者がよく知られている（『京都の部落史』[1-161]）。

以前、「中世に皮革製造や皮革細工、庭造りなど様々な仕事についていたひとが、近世になって穢多身分に落とされた」と説明をするむきもあったが、それは近世政治起源説的の偏見であり、古代末から中世にかけて「清め」とよばれた人たちが様々な仕事をつくりだして、それらが近世に継続したに過ぎないのである。

（つづく）

参考・引用文献

『京都の部落史』全10巻,京都部落史研究所刊,1984～1995年 本稿で引用の場合、[3-93]のように巻数と頁を示した。

京都部落史研究所編『中世の民衆と芸能』,阿吽社刊,1986年

丹生谷哲一著『検非違使 中世のけがれと権力』,平凡社刊,1986年

師岡佑行著『戦後部落解放論争史』第2巻,柘植書房刊,1981年

山本尚友著『被差別部落史の研究 移行期を中心にして』,岩田書店刊,1999年

横井清著『中世民衆の生活文化』,東京大学出版会刊,1975年

なお、次ページにあるように、『京都の部落史』を学習する取り組みを計画していますので、興味のある方はご参加ください。

部落史連続講座

『京都の部落史』教材化のために

部落史の研究はこの20年で大きく進展し、従来の部落史像は大きく書き改められてきました。また、研究の発展を反映して、小・中・高校の教科書における日本史の記述も変わりつつあります。小学校の教科書では、すでに改訂されており、中学校教科書も本年度から、高校教科書も次回より改訂されます。たとえば、小学校教科書では、杉田玄白に人体解剖をしてみせた「穢多の虎松」のおじいさんの話も登場します。

京都部落問題研究資料センターでは、そうした教科書を使って授業をされる教員の皆さんはもちろん、新しい部落史に興味をもたれる市民の方々を対象に、連続講座を企画しました。ふるってご参加ください。

第1回 5月17日(金)「中世 部落はこうして生まれた」

～「もののけ姫」に登場する中世被差別民の数々をご存知?
傀儡子・犬神人・ハンセン病者・アイヌ等々～

第2回 5月24日(金)「近世 部落の経済発展が生み出した差別の逆流」

～昔から部落が貧乏だと思ったら大間違い。幕末、京都の部落から繰り出した団体旅行～

第3回 5月31日(金)「近代1 部落の貧困は明治維新のあとにやってきた」

～明治14年 松方デフレ政策で部落の貧困は突如始まった～

第4回 6月7日(金)「近代2 米騒動・水平社・戦争・高度経済成長と部落問題」

～僻地の部落にも吹いた大正デモクラシーの風～

講師：灘本 昌久（京都部落問題研究資料センター所長）

コーディネーター：外川 正明（京都部落問題研究資料センター運営委員）

時間：午後6時～8時

場所：京都府部落解放センター 2階 実習室

資料代：各回800円（会員は500円）

参加希望の方は当日までに当資料センターまで電話・FAX・電子メールでご連絡ください。

『京都の部落史』史料を読む 第2回

『明治新撰西京繁昌記』と 浮かれ節

中島智枝子

はじめに

前回、近世期の大道芸の一つ、辻芝居について見た。今回は『京都の部落史』では余り触れられていないが、辻芸の一つである浮かれ節について見ることにする。

1871年（明治4）8月に解放令が出された翌月、京都府は天部村、悲田院に対して辻芸や門芝居を禁止する布令を出している。これらの芸人達が、この後どのように活路を見出していったかを考える時、新しく盛り場となった新京極での興行が目される。そこで、新京極を取り上げた『明治新撰西京繁昌記』（以下、本稿では『西京繁昌記』と表記する。）が描く浮かれ節について紹介したい。浮かれ節であるが、『西京繁昌記』では「浮れ節」とある。本稿では「浮かれ節」と表記する。

「浪花節という明治生れの芸能」（小沢昭一）であるが、浪花節研究を続けてこられた芝清之氏によれば、神仏の説法から始まり、「山伏たちによって 祭文となって広められ、願人坊主により チョンガレ

チョボクレ となって発展した。そして、近世における浪花節の母胎を追求すると、説教節 デロレン祭文 阿呆陀羅經 の3つに、集約される」。さらに、芝氏は諸説あるが、浪花節の祖である浪花伊助が、文化（1804～17）末年から文政（1818～29）初年にかけての頃に阿波浄瑠璃、祭文、春駒節、ほめらを取り入れ、浮かれ節の名乗りを大坂であげたということである。大道芸であった祭文やチョボクレ（=チョンガレ）が浮かれ節の基になっているということでもある。この浮かれ節であるが、幕末の頃には京坂地方で神社・仏閣の境内に仮設の小屋を作って、^{のぼり}興行が行われていたことが伝えられており、明治に入ってから東京では浪花節と呼ばれるようになったが、関西では明治期を通して浮かれ節と呼ばれていたという。また、浮かれ節・

浪花節が大道芸から離れて寄席の舞台にかかったのが、明治10年前後とされているためそれまでの文献が少ないということである（『大衆芸能資料集成』第6巻 芝清之著「解説」, 三一書房, 1980年）。この点からも大道芸から寄席にかかった時期の京都における浮かれ節について書かれている『西京繁昌記』は見逃すことの出来ない史料といえる。

『西京繁昌記』と増山守正

1872年（明治5）から開かれた新京極であるが、1876年（明治9）頃には早くも盛り場として賑わいを見せるまでになった。『西京繁昌記』を増山守正が著したのは1876年のことで、同書は1877年（明治10）に大谷仁兵衛、福井源次郎によって京都書房より出版されている。同書には明治20年代に国民新聞紙上に掲載した画で有名な久保田米僊が挿絵を描いている。漢文の添えられた久保田の画を見ると当時の時代の情景や雰囲気を感じることが出来る。

著者の増山守正（1828年～1901年）であるが丹後田辺（舞鶴）藩士の家に生まれ、16歳のとき藩校の授読助を命ぜられ、21歳の時、江戸に出て医学及び儒学を学んでいる。24歳の時、京都に帰り医学を学び、26歳の時、帰郷して、京田村にて医業を開始している。1867年（慶応3）、増山が39歳の時、綾部藩に招聘された。明治維新後、1875年（明治8）、京都府に出仕して、庶務課簿書掛を勤めるとともに地誌編纂に従事し、1878年（明治11）、衛生事務に転じ、その後、報告局を経て歴史部に勤め、1901年（明治34）に退官した。著書には『西京繁昌記』の他にも『旧習一新』、『因循一掃』、『人体問答纂要備考』等数多くある。（松井拳堂著『丹波人物志』, 1960年）。

『西京繁昌記』が書かれたのは増山が京都府に勤めた翌年のことであり、48歳の時のことである。増山は

序で次の様に述べている。「文明之善、開化之美、日進月盛、煥乎可仰焉。置郵出使、電信之捷、汽車于陸、汽船于海、其他百般不可勝枚舉。」と述べ、さらに、「凡そ西京の盛栄を知らんと欲せば、先づ此地より始めずんばあるべからず。嗚呼文明の世に逢ふて、此京に寓し、この京に寓して、此繁昌を觀る。記せずんば有るべからず。」と、開化を讚美する立場で開化の象徴としての新京極の紹介を行うことを述べている。そして、このような観点からの案内記であるから「明治新撰」と名付けたと記している。

当時の新京極について、1876年（明治9）6月12日付の『郵便報知新聞』は次のように報じている。

「下京第六区新京極通は、近時寺々の境内を開きし新町にて今は府下第一の繁盛を極め、昼夜諸人の輻輳する場所なるが、北は三条通り南は四条に限り、わずかに四町ばかりの処に興行席を始めた軒数のあまはしは、芝居三座、浄瑠璃席三軒、軍書講釈、落語六軒、浄瑠璃身振狂言三軒、見世物十二軒、大弓九軒、半弓三軒、揚弓十五軒、料理屋十一軒、ちよんがれ祭文二軒、牛肉店二軒、煮売屋、ソバや、茶店の類廿九軒、この外饅頭、菓子、手遊人形、小間物、小鳥、読売歌、齒抜き、写真、袋物屋の類、筆紙に尽くしがたく、なかんづく古手物は殊にたくさんなり。」この後、「近来府下人の口癖にて誰も不景気を唱えざるなけれども、試みに文久以前に遡り見よ、かく繁盛のことありしや、まつたく地方官吏の特別なる尽力注意の致す所ならん。」と新京極の繁栄をもたらした地方官吏すなわち楨村正直の功績を称えて結ばれている。

この記事から新京極にどのようなものがあるか概観できる。様々なものを取り扱う店のなかで古手物を商う店が多いことがうかがえるし、興行関係の小屋が35軒あることもわかる。また、牛肉店が2軒あるが、文明開化で開けた新京極ならではのことであろう。この記事の20年後の新京極であるが興行関係のものは、芝居4カ所、女芝居3カ所、にはか3カ所、落語2カ所、講釈4カ所、唄祭文、浮かれ節各1カ所等31の興行が行われている（『京都土産』、1895年）。興行の数では少し減少しているが、明治中期においても新京極は京都の興行の一大センターであったといえる。

『西京繁昌記』では上記のように数多くあるものの中から「近頃目撃する所の者を記載する而已」と断っている。そして、新京極は「西京の繁昌、新京極通を以て最とす。肆店の盛なる爛熳眼を奪ひ、觀場の多き、珍奇魂を驚し、技芸の妙出沒神を酔ハしむ。」と述べ、それらの中から菅公祠、誓願寺等の神社・仏閣をはじめ、見世物、演芸、遊技場、飲食店等35カ所を取り上げ、記述している。そのうち見世物は電機器械、影画等が9つ、演芸が演史、滑稽（＝落語）等8つ取り上げられている。半数近くが見世物と演芸であることから増山の目を引いたものがこれらのものであったといえるだろう。その一方で、文明開化の京都を紹介するという点でもかかわらず、牛肉店が取り上げられていないのは、増山が肉食について関心がなかったといえるのだろうか。あるいは、紹介するほどのことでもないと考えたからだろうか。当時、京都府では肉食の効用を説いていたことを医者であった増山が知らないはずはない。むしろ医者の増山が率先して紹介すべき様に思うが、『西京繁昌記』ではまったく牛肉店については触れられていない。

増山守正の芸能への眼差し

1872年（明治5）4月27日、新政府は芸能を教部省が管轄することにした。倉田喜弘氏によると新政府では芸能を「淫蕩猥褻二流し、風ヲ傷ヒ俗ヲ取り、其世教二大害アル実ニ甚シ」（『公文録』）と見たからであるとのことである。この時、芸能に対して天皇の尊厳を守ること、勸善懲悪に基づき淫風を排除すること、そして、芸能者を川原者と呼び差別してはならない、と同時に芸能関係者は言動を慎むこと、この3点を基本路線とした。京都府でもこの方針を受けて「芸能はすべて『実事二抛り・・・知識進歩ノ一助』になるよう要請」している（倉田喜弘著『芸能の文明開化』、平凡社、1999年）。

「陋習」を固守して開化に益なき芸能に対して厳しい態度がとられる中で新京極の多くの芸能を取り上げた増山は芸能についてどのように見ていたのだろうか。

増山の芸能に対する見方であるが、演史の項では「川柳の句にいふ、講釈師見て来たやうに吁詐を付き

と。」、滑稽では「恰も疑ふ、滑稽師八口より先へ生るゝかと」と記していることから当時の人々が持っていた見方と大きく変わらないといえる。演劇を紹介している中で、増山の芸能あるいは芸人に対する見方や考え方を詳しく知ることが出来る。

新京極での芝居小屋としてこの時期に挙げられているのが「東向き」と「道場」の2つである。役者には尾上梅朝、市川福太郎、尾上多三郎、坂東芝鬼蔵、嵐重三郎、中村歌之助等の名前が挙げられている。演史や滑稽あるいは女義太夫、二八力の項でも芸人の名前が挙げられている。ところが、後でも触れるが、浮かれ節では芸人の名前が挙がっていない。

芝居を紹介する中で馬の脚役について「人にして馬態をなし、心に之を甘んずる。其微小志八賤むべく、其文盲八憐むべし。」という。また、観客が舞台で見たことを真実と受け取ることに言及している。さらに、増山は女形について「女様を学び、紅粉を粧ひ人を誑かす」、「六七十の老優も少女に化て看客を誑す」等と述べ、役者の仕事は「到底八狐狸に魅せらる如くにて、何ぞ聖賢大丈夫嗜好なすべき業ならんや」という。そして、教育が進むにつれ、人々は「劇場の狐狸人民を誑惑するが如きの場たるを知り」、また、俳優も文明に感化を受け「泣ずして泣く真似する詭詐の術」を恥じて「虚戯の業を転じて実職に就き、劇場禁ぜずして自ら止む時あらん」と述べている。

増山の役者観、芝居観はまさに「芸能はすべて『実事二抛り・・・知識進歩ノ一助』になるよう要請」という京都府の姿勢そのものであるといえる。増山は電気を起こす装置を使って発電させる見世物の「電機器械」について、「実の実なる者」とし、「観場中其実の最なる者」、「真に文明に適せし観物」という。実を重んじる増山の立場は、芝居は人を誑かすものであると見るだけであり、開化に益がないものであると断じるだけである。増山は開化が進み人々が正しい知識を持つと芸能が廃れ、また、俳優もそのような虚業に従事することも出来なくなり正しい仕事に従事することになると説いているのである。開化を進める上で役立つものは認めるが、開化に役立たないものは無用なものと言うことであろう。このような芸能に対する考

えの増山は浮かれ節を一体どのように見たのだろうか。

浮かれ節と解放令

増山は浮かれ節について次の様に書き出す。「或人曰、『チョンガレ』と八書すべからざるの名と。或人曰、ちようがれぶし長 浮かれ節といふの義と。僕曰、略して浮かれ節と称して可ならんか。」という。チョンガレというのが浮かれ節というのかについて記していることからこの時期は二通りの呼称が使われていたのであろうか。著者は最初に「フーと声を引く事長き」がため、増山は長とするのも一理あると断った上で浮かれ節とは長浮かれ節が略されたものと考えてよいのではないかと言う。

増山は浮かれ節を「世の歌謡の心気を浮す者の第一とする者八、凡そ人心を発揚する者千万是れに過る者なし」と記していることから当時の歌謡のうち、「人心を発揚」するものとして高く評価している。

この浮かれ節を演じていた人々であるが、「其業八賤の賤なる者にして、従来人々席を列るを忌む。而して明治以来平民に列す。亦維新の徳沢といふべし。」と記している。このことから、浮かれ節を演じていた人々は1871年（明治4）に出された解放令により平民となった人々であった。「亦維新の徳沢といふべし」と述べているところは開化を善とする増山ならではのことといえるだろう。ともあれ、この時期の浮かれ節の芸人達の多くが近世の身分制度のもとでは賤民であったといえる。

京都府ではこの解放令を受けて「はじめに」でも触れたが、天部村および悲田院に対して、身分に伴う公役の廃止と共にこれらの人々が行って来た大道芸に対して、「一、辻芸・門芝居、向後禁止の事」を示している。大道芸に従事していた人々にとっての打撃は大きかったと思われる。しかし、これらの人々の中から数年後には新しく開かれた新京極に進出し浮かれ節の興行を行い、芸人として新しく活路を見出しているといえる。とはいえ、前記した通り演者の名前が記されていない。当時の浮かれ節師で吉田岩吉や広沢岩助等名前を残している人もいることから、演者の名前が聴衆に語られなかったとは考えにくい。増山にとって浮かれ節師一人ひとりに関心が向うことがなかったこ

とを物語っていると見てよいのではないだろうか。

浮かれ節の興行実態

『西京繁昌記』では、当時新京極で行われていた浮かれ節の興行形態について知ることが出来る。浮かれ節を興行した時刻であるが日の沈む頃に終了したということから、日中であった。興行場所であるが、空き地に演台だけ置いたものなのか、それとも、葎よしずを立てかけ囲いがあったものか、それとも本格的な小屋であったのかどうか『西京繁昌記』の記述からははっきりとわからない。

客は入場料を払って入るということではなく、自由に出入りすることが出来、置かれた床几に座って聴くことも出来れば、立って聴くことも出来た。久保田米僊の画には「朋を引き、類を聚むる十余名」と漢文が添えられているところから「十余名」位の聴衆を前に興行が行われたのだろう。集金人が聴衆の間を廻り、四、五銭あるいは一朱の金を出した客には集金人がこれ見よといわんばかりに高座の「談者」に示す。そして、「談者」は高座から謝意を表した。一方、聴衆の中で集金人が廻るたびに逃げて金を出さない者には「遂に高座より風評せられ、赧ちようぜん然紅を潮して去る。」光景も見られたということだ。前記した「幟興行」は金を払った者に15センチほどの幟を頭に立て、払っていない者と区別したということである。『西京繁昌記』によると新京極では幟興行は行われていなかったといえる。

久保田米僊の画が添えられているが、その画は高座に座った談者と三味線弾きの二名が描かれている。見台を前に胸を開けて着物を着た男の談者が右手に扇子、左手に錫杖しゃくじょうを持って座っている。談者の左側に日本髪でやや胸を開けた感じで着物を着た女が三味線を持って座っている。談者はまだ羽織・袴を着用しておらず、画を見た印象は一寸くだけた着物の着方のように見える。

談者が「戯言ざれごとを吐て」、「口から出放題、調子に乗って佳境に入り談者錫杖を振り折らんとし、三味線弾き腕を撥ひ落さんとす」、一方、聴衆はといえば、「我を忘れて忙然たり。丁稚も主用を欠き、婆も念仏を怠

る」。浮かれ節が聴衆にどのように聴かれていたかよくわかる。

浮かれ節が語っている文句であるが、増山は「其言極めて猥雑、其口あつかまし最鬧熱」と書いている。猥雑なことを厚かましく言い立てているように増山には聴こえたようだ。「旦那一生の御願ひでゴザリマス。二三升御米を借して下さらバ、直に算用致しますと四升らしう云ふ故に、借してやつたら五升にもならふかと・・・」、あとはこの調子で六升、七、八、九升、「一斗いっとう頃まで待すのじゃ。」と続く。借りた米を返すことが出来ない貧しい庶民の暮らしを面白おかしく語る浮かれ節から、聴く側は、「口から出放題」とあるように立て続けに出る掛詞や語呂合わせが組み込まれた文句に滑稽さや軽快さを感じたのであろう。それに、滑稽(=落語)とは異なり声の長短、高低、清濁を伴う抑揚ある節がつくのであるから聴いている側に心地よく響いたのではないだろうか。まさに、「我を忘れて忙然たり」という状態になったことであろう。

むすび

『西京繁昌記』で描かれた浮かれ節について長い紹介になったが、浮かれ節を語っていた芸人および談者が近世期の祭文語りと同じように錫杖を持っていること等、この時期の興行の実態について明らかになった。さらに、『西京繁昌記』は明治10年頃の新京極を知る上で欠くことの出来ない史料に留まらず、浮かれ節をはじめとするこの時期に行われていた見世物や演芸、遊技場での娯楽等について非常に多くのことを現在の私たちに伝えてくれる史料でもある。ともあれ、この時期の浮かれ節は、新京極を賑わした数ある演芸の中であって、「声を引く長きあり、短きあり。高低清濁抑揚頓挫、悉く其曲節を尽さゞる無く」と評される声の響きとその文句で、「貴賤貧富老若男女、総して之を嗜好せざるなし」と多くの人々を魅了したのである。明治後期に至り大衆娯楽の王者となる浪花節の魅力はこの時期にすでに見られたといえる。

(なかじま ちえこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員)

収 集 図 書 (2002年1月～3月受入)

総記 図書館

パソコン悠悠漢字術2001 今昔文字鏡徹底活用(文字鏡研究会編, 紀伊国屋書店刊, 2000.12): 2,300円

まちの図書館でしらべる(まちの図書館でしらべる編集委員会編, 柏書房刊, 2002.1): 2,000円

総記 博物館

絵図に描かれた被差別民(大阪人権博物館編刊, 2001.9)《特別展展示解説図録》

柳原銀行と皮革業(京都市人権文化推進課刊, 2002.2)《柳原銀行記念資料館第10回特別展図録》

部落問題 総記

部落差別を克服する思想 どうしてそこに部落があると思いますか?(川元祥一著, 解放出版社刊, 2001.4)

知っていますか? 部落問題 一問一答(「知っていますか? 部落問題一問一答」作成委員会編, 解放出版社刊, 1990.2)

部落問題論への招待 資料と解説(寺木伸明, 野口道彦編, 解放出版社刊, 2001.4)

弾左衛門風雲録 序の巻(早瀬二郎漫画, 解放出版社刊, 1991.9): 1,500円

弾左衛門風雲録 破の巻(早瀬二郎漫画, 解放出版社刊, 1991.9): 1,500円

弾左衛門風雲録 急の巻(早瀬二郎漫画, 解放出版社刊, 1992.5): 1,500円

反「人権」宣言(八木秀次著, 筑摩書房刊, 2001.6): 680円

部落解放・人権年鑑 2001年度版(部落解放・人権研究所編刊, 2002.3)

[関西大学] 人権問題研究室公開講座 1995(関西大学人権問題研究室編刊, 1996.3)《「差別語と差別表現を考える」(田宮武), 「定住外国人の参政権問題を考える」(李英和), 「福祉のまちづくり」(荒木兵一郎), 「女の表現・男の表現」(山村嘉己), 付 研究学習会「阪神大震災からの復興」(滝野雅博)》

人権啓発研究集会討議資料 第6回(第6回人権啓発研究集会実行委員会刊, 1992.2)

世界人権問題研究センターについて(答申)(平安建

都千二百年記念協会, 世界人権問題研究センター設立研究会刊, 1992.12)

部落問題 生活・宗教・差別事件・伝記

1993年京都部落差別事件真相報告集会(部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊, 1993.12)

1994年京都部落差別事件真相報告集会(部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊, 1994.12)

差別脅迫事件 部落出身を理由に500万円を要求(部落解放同盟東京都連合会刊, 1998.7): 600円

差別脅迫事件全真相 東京地方裁判所が元慶應大学生に有罪判決(部落解放同盟東京都連合会刊, 2002.1): 600円

狭山事件の事実調べを求めるシンポジウム報告書 再審裁判と鑑定について考える(部落解放同盟京都府連合会, 部落解放京都地方共闘会議編刊, 1994.4)

全国のあいつぐ差別事件 [1992年版](部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会編刊, 1992.10)

差別事件報告集 差別事件10年間を振り返って(和歌山県部落解放・人権研究所編刊, 2002.2)《人権ブックレット第2号》

西本願寺「スキャンダル」の真相! 日本最大仏教教団の“経済犯罪”から“セクハラ暴力”まで(一ノ宮美成, グループ・K21編著, 宝島社刊, 2001.12)

部落解放京都地方共闘会議総会議案書 第21回(部落解放京都地方共闘会議刊, 1998.11)

部落解放京都地方共闘会議総会議案書 第23回(部落解放京都地方共闘会議刊, 2000.12)

企業と同和問題 公正な採用・選考のために(労働省[編]刊, 1992.4)

朝田善之助全記録 49(朝田教育財団刊, 2002.1): 1,000円

解放運動夜話 わが回想の記(小森龍邦著, 部落解放同盟広島県連合会出版局刊, 2001.5)

解放運動夜話 第3集 わが回想の記(小森龍邦著, 部落解放同盟広島県連合会出版局刊, 2001.10)

故松本英一委員長を偲ぶ会(故松本英一委員長を偲ぶ会実行委員会刊, 1994.9)

部落問題 歴史

部落の歴史と解放運動 前近代篇(部落問題研究所編

刊, 1985.12) : 2,200円
 部落の歴史と解放運動 近代篇 (部落問題研究所編刊, 1997.12) : 2,200円
 部落の歴史と解放運動 現代篇 (部落問題研究所編刊, 1997.12) : 2,600円
 被差別部落ゼロ? 近代富山の部落問題 (藤野豊著, 桂書房刊, 2001.6) : 1,500円
 鈴鹿市域における融和事業のあしあと (鈴鹿市部落史作成委員会編刊, 鈴鹿市教育委員会, 2000.3) 《鈴鹿市・人権のあゆみシリーズ3 (近代編1)》
 同和対策・同和教育の20年 (鈴鹿市部落史作成委員会編刊, 1996.3) 《鈴鹿市・人権のあゆみシリーズ1 (現代編1)》
 四日市の部落史 史料編近現代補遺 (四日市市編刊, 2001.3)
 四日市の部落史 第4巻 民俗編 (四日市市編刊, 2001.12)
 柳原銀行史 (重光豊著, 柳原銀行資料館運営協議会刊, 2000.6) : 500円
 大阪の部落史 第4巻 史料編近代1 (大阪の部落史委員会編, 部落解放・人権研究所刊, 2002.3)

部落問題 同和行政・実態調査

笠置町人権教育推進をめざす総合計画 部落差別撤廃 人権擁護に関する条例 (笠置町刊, 1998.12)
 同和問題についての意識調査結果報告書 (京都府刊, 1984.3) 《昭和58年5月調査》
 人権教育のための国連10年 福知山市行動計画 福知山市人権教育・啓発基本方針 (福知山市刊, 2001.4)
 大阪同和事業五十年史 大阪府同和事業促進協議会創立五十周年記念 (大阪府同和事業促進協議会編刊, 2001.12)
 人権教育・啓発に関する基本計画 (中間取りまとめ) (部落解放・人権研究所刊, [2002.1]) 《法務省, 文部科学省の基本計画への部落解放・人権研究所としての補強・修正がなされている》
 未指定地区実態調査中間報告 '94年 (部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会編刊, 1994.9)

部落問題 解放運動

写真記録 全国水平社 (部落解放同盟中央本部編, 解放出版社刊, 2002.3)
 『解放新聞』にみる戦後部落解放運動のあゆみ (解放新聞社編刊, [2002.3]) 《全国水平社創立80周年記念冊子》

全国水平社創立八十周年 [記念パンフレット] ([部落解放同盟中央本部]刊, 2002.3)
 部落解放行政推進部落解放基本法制定要求第三期第12波中央行動資料 (部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会編刊, 1995.1)
 部落解放全国女性集会報告書 第43回 解放をめざす女性活動 (部落解放同盟中央女性対策部編, 部落解放同盟中央本部刊, 1999.1)
 部落解放全国女性集会報告書 第44回 解放をめざす女性活動 (部落解放同盟中央女性対策部編, 部落解放同盟中央本部刊, 2000.2)
 部落解放同盟京都府連合会井手支部結成30周年記念誌 (井手支部結成30周年記念誌編集委員会編, 部落解放同盟京都府連合会井手支部刊, 2001.5)
 人権を考える亀岡市女性集会報告集 第16回 出会い・発見・共生 (人権を考える第16回亀岡市女性集会実行委員会刊, 1998.12)
 部落解放亀岡市女性集会 第15回 (部落解放第15回亀岡市女性集会実行委員会刊, 1997.12)
 部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会大会議案書 第14回 (部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊, 1998.8)
 部落解放京都府企業連合会 第27回総会議案書 (部落解放京都府企業連合会編刊, 2001.6)
 部落解放同盟京都府連合会青年部大会 大会資料 第6回 (部落解放同盟京都府連合会編刊, 2000.3)
 部落解放同盟京都府連合会青年部大会 大会資料 第5回 (部落解放同盟京都府連合会編刊, 1999.3)
 部落解放同盟京都府連合会定期大会 議案書 第44回 (部落解放同盟京都府連合会編刊, 1997.4)
 部落解放同盟京都府連合会定期大会 議案書 第48回 (部落解放同盟京都府連合会編刊, 2001.4)

部落問題 教育

人権教育への提案 義理・人情から人権へ (アジア・太平洋人権情報センター編刊, 2001.3)
 教育コミュニティ・ハンドブック 地域と学校の「つながり」と「協働」を求めて (池田寛編著, 解放出版社刊, 2001.10)
 峠を越えて 板野中学校・全体学習10年間の奇跡 (板野中学校刊, 2000.3) : 2,380円
 どんだけ学校に出たいか 通・就学保障運動 (兵庫解放教育研究会編, 明治図書出版刊, 1975.9)

にんげん 2年10訂版(全国解放教育研究会編, 明治図書出版刊, 1983.4)

太鼓 人権総合学習 つくって知ろう!かわ・皮・革(三宅都子文, 中川洋典絵, 解放出版社刊, 2001.9)
部落解放京都府「同和」保育研究集会 討議資料 第1回(部落解放第1回京都府「同和」保育研究集会実行委員会刊, 1997.5)

人権問題を共に考えよう 第6号(大谷大学同和教育資料室編, 大谷大学, 大谷大学短期大学刊, 2001.3)

読み書きなかま集まれ すべての人に文字を(国際識字年推進京都連絡会編刊, 1994.6)

「人権教育のための国連10年」わたしたちの課題(「人権教育のための国連10年」推進連絡会編刊, 1997.3)

部落問題 文化

小説石田波郷(土方鐵著, 解放出版社刊, 2001.3)

日本の差別問題

ハンセン病国賠訴訟判決 熊本地裁[第一次~第四次](解放出版社編刊, 2001.11)《八尋光秀執筆》

ハンセン病療養所から50年目の社会へ(島比呂志, 矢辺拓郎著, 解放出版社刊, 2001.9)

知っていますか? ユニークフェイス 一問一答(松本学, 石井政之, 藤井輝明編著, 解放出版社刊, 2001.12)

民衆を彫る 沖縄・100メートルレリーフに挑む(金城実著, 解放出版社刊, 2001.7)

あゆみと研究 4(京都市中学校教育研究会外国人教育部会刊, [1990])

ヒロシマを持ちかえった人々 「韓国の広島」はなぜ生まれたのか(市場淳子著, 凱風社刊, 2000.11): 2,600円

朝鮮をどう教えるか(『朝鮮をどう教えるか』編集委員会編, 解放出版社刊, 2001.3)

もうがまんできない!指紋を押すのは 5.3指紋押捺制度を許すな!市民集会報告集(5.3集会実行委員会刊, 1984.7)

知っていますか? 在日韓国・朝鮮人問題 一問一答 第2版(梁泰昊, 川瀬俊治著, 解放出版社刊, 2001.5)

京都府女性海外研修事業報告書 平成9年度 北欧の風は女性いる([京都府]刊, [1997])

悔やむことも恥じることもなく 京大・矢野教授事件の告発(甲野乙子著, 解放出版社刊, 2001.7)

知っていますか? 女性とストレス 一問一答(友田

尋子, 安森由美, 山崎裕美子著, 解放出版社刊, 2001.6)

世界の差別問題

差別語からはいる言語学入門(田中克彦著, 明石書店刊, 2001.11): 1,800円

われらの内なる差別 日本文化大革命の戦略問題(津村喬著, 三一書房刊, 1970.2)

夜明けの蓮(ウ・ミンジョー著, 米子今井書店刊, 2002.1)《訳者: スーザ・ミョウタン, 杉本良巳》

青い目茶色い目 人種差別と闘った教育の記録(ウイリアム・ピーターズ著, 日本放送出版協会刊, 1988.12): 《複写》

THE NEGRO FAMILY THE CASE FOR NATIONAL ACTION (Moynihan著, 1981)《Moynihan report オリジナルは1965年刊, 複写》

宗教

人間解放の福祉論 出口王仁三郎と近代日本(広瀬浩二郎著, 解放出版社刊, 2001.2)

日本史・伝記

織豊政権と江戸幕府 日本の歴史第15巻(池上裕子著, 講談社刊, 2002.1): 2,200円

天下泰平 日本の歴史第16巻(横田冬彦著, 講談社刊, 2002.3): 2,200円

桑山村名主市之丞の日記 文政四年 浅科村の史料第2集(佐藤敬子編著, 浅科村教育委員会刊, 2001.12)

京柗座福井家文書 下 叢書京都の史料6(京都市歴史資料館編刊, 2002.2)

志高く山河清し 政治家・林田悠紀夫の歩んだ道(四方洋著, 両丹経済新聞社刊, 1999.11)

社会科学

ハンナ=アーレント(太田哲男著, 清水書院刊, 2001.12): 850円

はじけ!鳳仙花 光州に連帯する版画のメッセージ(五月の風刊, 1981.5)

国際人権を知っていますか 自分を大切にするためのパワーアップ(アジア・太平洋人権情報センター編, 大阪市・大阪市人権啓発推進協議会刊, 1998.12)

知っていますか? 君が代・日の丸 一問一答(上杉聰著, 解放出版社刊, 2001.3)

凍った大地 ハルビンから方正へ(松見正宣刊, 2001.10)

マスコミは何を伝えたか 追跡・和歌山カレー事件報道（佐藤友之著，解放出版社刊，2001.5）
 新京都府総合計画 むすびあい，ともにひらく新世紀・京都（京都府企画環境部企画参事編刊，2001.1）
 新京都府総合計画 概要版 むすびあい，ともにひらく新世紀・京都（京都府企画環境部企画参事編刊，2001.1）
 戦後補償へのみち 上海・南京・北京・天津・保定 追悼と誓いの旅1992.8（第7次アジア・太平洋地域の戦争犠牲者に思いを馳せ，心に刻む南京集会友好訪中団編刊，1992.12）
 人道的介入 正義の武力行使はあるか（最上敏樹著，岩波書店刊，2001.10）：700円
 根拠地 解放の起点 第2回理論シンポジウムの報告（工人社刊，[1980]）
 南大阪は炎えている（総評全国金属山科鉄工支部，山科鉄工自主管理研究会刊，1979.11）
 南大阪は炎えている 続（総評全国金属山科鉄工支部刊，1980.12）
 知っていますか？子どもの性的虐待 一問一答（田上時子，エクパットジャパン関西編著，解放出版社刊，2001.9）
 突破者異聞 鉄(kurogane) 極道・高山登久太郎の軌跡（宮崎学著，徳間書店刊，2002.2）：1,600円

地域福祉計画の策定に向けて 地域福祉計画に関する調査研究事業報告書（地域福祉計画に関する調査研究委員会編，全国社会福祉協議会刊，2001.10）
 知っていますか？セルフヘルプ・グループ 一問一答（伊藤伸二，中田智恵海編著，解放出版社刊，2001.11）
 歴史民俗学 19号 特集 極楽行きのノウハウ（歴史民俗学研究会編，批評社刊，2001.3）：1,500円
 歴史民俗学 20号 サンカの最新学 三角寛ワールドを学問する（歴史民俗学研究会編，批評社刊，2002.2）：1,800円

絵本

行こさくら（西田英二文，荒川のり子絵，解放出版社刊，2001.3）
 バーニーとトトとクンクンの12月はまいにちがすてき！（二宮由紀子文，松永雅之絵，解放出版社刊，2001.11）

文学

杳掛筆記（中野重治著，河出書房新社刊，1979.4）
 《「在日朝鮮人と全国水平社の人びと（1）～（12）」所収》：1,400円

収集逐次刊行物目次（2002年1月～3月受入）

～各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました～

跡地発 16（街づくり推進協議会刊，2002.1）
 キネマでとった杵柄 15 『アリー・my・ラブ』編 嶋田あがった
 十人十色の部落問題 9 嶋田の秋祭り 牧田清
 アファーマティブやまぐち21 第5号（アファーマティブやまぐち21刊行委員会刊，2001.12）：700円
 山口県における差別記載過去帳と差別戒名墓石 長岡裕之
 ハンセン病問題 の構想とその問題圏～ハンセン病罹患者の自己と生を視軸に～ 中村文哉
 学力促進学級から人権交流学習会へ 松本真理子・藤井律子
 「家畜として育てたニワトリなんだけど…」～自分たちの命は他の命に依存していることを確認できたのか～ 青木洋一
 人は人を差別するのが常態なのか？～我が心の差別史～

片山望正
 部落の窓から1～翁たちの時代の言葉～ 岩田利平
 池坊短期大学紀要 32号（池坊短期大学刊，2002.3）
 京都市山王学区における高齢者への生活支援サービスに関するケーススタディー 齋藤功子
 IMADR-JC通信 117（反差別国際運動日本委員会刊，2002.3）：500円
 本の紹介 『人はなぜ「権利」を学ぶのか フィリピンの人権教育』（阿久澤麻里子著）
 ウィングスきょうと 48号（京都市女性協会刊，2002.2）
 コミックで考えるジェンダー 『ぼくんち』（西原理恵子著）
 図書情報室新刊案内
 『あれも家族これも家族』（福島瑞穂著）/ 『日米のシ

シングルファーザーたち 父子世帯が抱えるジェンダー問題』(中田照子他編著)/『ジェンダーフリーな住まいを創る』(石井恵子著)/『女性芸能の源流 傀儡子・曲舞・白拍子』(脇田晴子著)

大阪の部落史通信28(大阪の部落史委員会刊,2002.1)
触松村と堺市との合併をめぐる 北崎豊二

図書紹介 『遠田良善日記』(部落解放・人権研究所編)
明治初期における大阪の芸能 非人身分とその芸能 中島智枝子

岡山部落解放研究所報 226号(岡山部落解放研究所刊,2001.12):100円

部落史拾遺 柳之土手非人の芸能 好並隆司

岡山部落解放研究所報 228号(岡山部落解放研究所刊,2002.2):100円

人権擁護法案大綱について 若林義夫

解放教育 410(解放教育研究所編,2002.2):690円

特集 新しい進路支援の教育をつくる

調査にみる素顔のいまどき高校生8 効果ある人権教育をめざして 鍋島祥郎

図書紹介 『理科がおもしろくなる12話』(山口幸夫著) 島村武史

解放教育 411(解放教育研究所編,2002.3):690円

特集 激変の世界へ教育の組み替えを 学習権の視座と展望

図書紹介 『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編) 上杉孝實

調査に見る素顔のいまどき高校生9 学歴世襲化装置としての学校 鍋島祥郎

図書紹介

『ニューカマーと教育 学校文化とエスニシティの葛藤をめぐる』(志水宏吉・清水睦美編著) 教育を受ける権利をすべての子どもに保障するため、学校はどう変わるべきかと考えている人たちへ 阿久澤麻理子/『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編著) 「総合的な学習の時間」の力強い指針 赤尾勝己

バックナンバー(400号~411号)

解放教育 412(解放教育研究所編,2002.4):700円

特集 子どもたちの生活世界を拓く 夢と出会いのシンフォニー

図書紹介 『「小1プロブレム」に挑戦する 子どもたちにラブレターを書こう』(新保真紀子著) 野口克海

調査に見る素顔のいまどき高校生10 消費する者は救われ

ない 鍋島祥郎

解放研究とっとり 4号(鳥取県部落解放研究所刊,2001.12):1,200円

人権条例の時代がやって来た! 椋田昇一

鳥取藩(県)における被差別部落の新村形成 安政入百姓から天神野開田まで 宇田川宏

城下町鳥取における行倒れ死骸処理の実際 田中真次
行動から学ぶ人権学習 「熱き思いにこたえて」取組んだ「人権劇」 石丸浩行

忍者プロジェクトに取り組んで 瀬戸根美智代

鳥取県「同和」教育再生のための八つの問題提起 福田和博

差別事象にみる差別の構造 椋田智和さんの問題提起に答えて 新井宏則

倉吉市の「あらゆる差別をなくする審議会」の実践 人権尊重のまちづくりをめざして 宇山眞

「鳥取県における在日韓国・朝鮮人問題について」 金泰鎮

宗教と部落差別・人権問題 仏教(曹洞宗)の取り組みを中心にして 鎌谷良憲

元解放同盟県連書記長・前田俊政氏が語る「私の部落解放運動」(3)

古老が語る部落のあゆみ(4) 生活環境と災害

月刊解放の道 216号(全国部落解放運動連合会刊,2002.1):350円

えせ同和行為の実態と排除のために 奥山峰夫

月刊解放の道 217号(全国部落解放運動連合会刊,2002.2):350円

「人権教育・啓発に関する基本計画」(中間取りまとめ)

に対する意見 全国部落解放運動連合会

月刊解放の道 218号(全国部落解放運動連合会刊,2002.3):350円

「青年NPO」の設立と青年運動の前進を 内山龍

カトリック部落問題委員会ニュースレター 78(カトリック部落問題委員会刊,2002.3)

「人間の街」をめざして 山本義彦

本の紹介

『日本のファシズムと優生思想』(藤野豊著)/『「いのち」の近代史』(藤野豊著)/『証人調書「らい予防法国賠訴訟」和泉眞藏証言』/『部落差別を克服する思想』(川元祥一著)/「キリシタンと部落 その歴史的諸関係をめぐって」(阿南重幸著,『もやい』43号)

かわとはきもの 118(東京都皮革技術センター台東

- 支所刊, 2001.12)
- 靴の歴史散歩63 稲川實
- シリーズ 足の機能に障害がある人の靴 3 イギリスにおける靴装具の支給 大野貞枝
- 皮革関連統計資料
- 関西大学人権問題研究室紀要 43号(関西大学人権問題研究室刊, 2001.12)
- 女性の人材育成と企業のグローバルスタンダード化 金谷千恵子
- 精神障害者の社会復帰に関する実態調査(9) 埼玉県・群馬県 葉賀弘, 藤井稔, 荒木兵一郎, 雑古哲夫
- 「人権問題研究室紀要」既刊号目録(第30号~第42号)
- 関西大学人権問題研究室紀要 第44号(関西大学人権問題研究室刊, 2002.2)
- 丹波国の寺院史料の基礎的考察 部落寺院の改派と寺号獲得を巡る問題について 吉田徳夫
- 関西大学人権問題研究室開設25周年記念国際シンポジウム 民族と国家を超えて 国際化時代における人権[講演・分科会記録]
- 季節よめぐれ 169号(京都解放教育研究会刊, 2002.2.1)
- ウトロの歴史と現状について 巖本明夫
- 勇気が出てくる人権学習 人権ワークショップを通して 白井俊一
- 季節よめぐれ 第170号(京都解放教育研究会刊, 2002.3)
- 同和教育メッセージの見直し もっと新しく, もっと明るく, もっとわかりやすく 江嶋修作
- 季節よめぐれ 第171号(京都解放教育研究会刊, 2002.4)
- 同和教育に学ぶ「教育改革」をめざして 2002年が私たちに問いかけるもの 外川正明
- 『季節よめぐれ』バックナンバー総目次一覧
- 季節よめぐれ 172号(京都解放教育研究会刊, 2002.5.1)
- 在日コリアンの考え方の一考察 朴一
- 京都橘女子大学研究紀要 28号(京都橘女子大学研究紀要編集委員会刊, 2002.1)
- 生駒家と座頭・警女仲間 朝尾直弘
- キリスト教社会問題研究 50号(同志社大学人文科学研究刊, 2001.12)
- 「市民」が「国民」になるとき 久布白落実における「ホーム」論の転回 林葉子
- 『廓清』における産児調節論の展開 障害者の生まれ生きる権利と女性の生きる権利及び産み育てる権利の展開 畠中暁子
- クロノス[時の鳥] 16(京都橘女子大学女性歴史文化研究所刊, 2002.3)
- 性と生殖をめぐる諸問題 4 フランス映画「主婦マリーがしたこと」における妊娠中絶問題1 鎌田明子
- イギリス女性生活誌16 「イギリスの福祉と女性1」 福祉の複合体 松浦京子
- 男と女 美意識の変遷 9 児童文学における女性作家の優位について 細辻恵子
- グローブ 28(世界人権問題研究センター刊, 2002.1)
- 朝鮮通信使4 日本国王と大君 仲尾宏
- 部落史「トンデモ本」の世界 前川修
- 研究所通信 282(部落解放・人権研究所刊, 2002.2): 100円
- 読んでみたい議論してみたい文献 『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編)
- 研究所通信 283(部落解放・人権研究所刊, 2002.3): 100円
- 読んでみたい議論してみたい文献
- 『社会的価値の実現をめざす自治体契約制度の提言 入札で地域を変える』(自治労 自治体入札・委託契約制度研究会) / 『協働の教育による学校・地域の再生 大阪府松原市の4つの中学校区から』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室)
- 国立女性教育会館研究紀要 5号(国立女性教育会館刊, 2001.11)
- テーマ 21世紀の家族と子ども
- 書評
- 『日本の社会政策とジェンダー』(塩田咲子著) 渋谷敦司 / 『女に向かって 中国女性学をひらく』(李小江著) 藤枝澗子 / 『近代国家と家族モデル』(西川祐子著) 栗原るみ / 『学校をジェンダー・フリーに』(亀田温子・館かおる編著) 堀内かおる
- こべる 107(こべる刊行会刊, 2002.2): 300円
- 「人間について 人と木の物語」(上) 長田弘
- 部落解放・人権研究所編『部落の21家族』を読む 石原英雄
- こべる 108(こべる刊行会刊, 2002.3): 300円
- 「人間について 人と木の物語」(下) 長田弘
- 石川啄木再読 吉田智弥

- 編集人への手紙 曾野綾子氏の意見について 松井安彦
こべる 109 (こべる刊行会刊, 2002.4) : 300円
『黒い陽炎 県閩融資究明の記録』を読む 野町均
「部落差別の現実に学ぶ」は、被差別部落への拝跪ではない 住田一郎
- 解放とは何か 吉田智弥
差別とたたかう文化 24 (「差別とたたかう文化」刊行会編, 2002.3) : 400円
- 特集 アフガン侵攻・自衛隊参戦に反対する
わが足跡4 土方鐵
- 狭山差別裁判 337号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.1) : 300円
- 特集 司法改革を考える
管理・統制される裁判所3 もはや日本の司法は公権力チェック機能を失った 生田暉雄 / 虚偽自白による冤罪を根絶するために「自白の心理学」から司法改革を考える 浜田寿美男
- 狭山差別裁判 338号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.2) : 300円
- BOOK 『司法修習生が見た裁判のウラ側』(司法の現実に驚いた53期修習生の会編)
- 狭山差別裁判 339号 (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.3) : 300円
- 特集 異議申立棄却決定を批判する!
月刊滋賀の部落 332 (滋賀県部落問題研究所刊, 2002.3) : 600円
- 落ち牛と生業 藤田恒春
滋賀県における米騒動と部落問題 (卒業論文) 滋賀県の米騒動期の地域 多田さやか
「月刊滋賀の部落」目次 (288号~329号)
月刊滋賀の部落 333 (滋賀県部落問題研究所刊, 2002.3) : 400円
- 人権をめぐる不思議な光景 今、人権はどこへ向かっているのか 川辺勉
太鼓張替史料 藤田恒春
- 人権21 調査と研究 (岡山部落問題研究所刊, 2002.2) : 650円
- 安岡文学における「差別」について 魏 【ゆう】原
史料は語る5 倉敷村の牢番5 大森久雄
- 人権教育 18号 (人権教育研究所編, 2002.4) : 770円
- 特集 人権「危機」の21世紀?
書評
『人はなぜ「人権」を学ぶのか フィリピンの人権教育』(阿久澤麻理子著) / 『いじめをなくし、心をつなぐ友達づくりのスキルを』(松下一世著) / 『レッツ・コミュニケーション さあ話し合いましょう』(角田尚子・ERIC国際理解教育センター著) / 『もう一つの人権論 [増補新版]』(佐々木允臣著)
連載 発信するNGO あすばる甲賀
月刊人権問題 301 (兵庫人権問題研究所刊, 2002.1) : 350円
宝塚市の同和行政終結への市民運動 松下修治
阪神・淡路大震災と人権の救済 国連社会権規約委員会、被災者支援策を批判、是正を勧告 出口俊一
月刊人権問題 302 (兵庫人権問題研究所刊, 2002.2) : 350円
松崎天民が石川啄木を驚かせる新聞記者となるまで2 天民「新聞配達」をめぐる 後藤正人
月刊人権問題 303号 (兵庫人権問題研究所刊, 2002.3) : 350円
全国水平社創立80周年の歴史的意義 成澤榮壽
伊丹市におけるゆがんだ同和行政終結に向けた市民のたたかい 上原秀樹
尼崎市における「法期限後の同和行政のあり方」について 高橋藤樹
近代の社会的差別59 友愛会の歴史的意義と社会事業13 布川弘
松崎天民が石川啄木を驚かせる新聞記者となるまで3 天民「新聞配達」をめぐる 後藤正人
月刊滋賀の部落 330号 (滋賀県同和問題研究所刊, 2002.1) : 400円
舌鼓をうつ近江の牛肉 藤田恒春
世界人権宣言大阪連絡会議ニュース 235 (世界人権宣言大阪連絡会議刊, 2002.3) : 100円
アメリカのパレスチナ政策 パレスチナに平和は来るか 奈良本英佑
同和教育 478 (全国同和教育研究協議会編, 2002.1) : 150円
人権のまちをゆく8 多文化共生をめざすまち 横浜市鶴見区・潮田
人権文化を拓く59 学びの原動力は好奇心 秋山仁
同和教育 479 (全国同和教育研究協議会編, 2002.2) : 150円
人権文化を拓く60 精神病差別の扉が開くとき 金谷直子
同和教育 480 (全国同和教育研究協議会刊, 2002.3) : 150円

人権文化を拓く 61 コンピューターを越える職人技の話
中尾健次

同和教育研究すずか 9号(鈴鹿市教育委員会同和教育
室刊, 2002.1)

鈴鹿市域における芸能の民～説教者～

書籍紹介

『太鼓』(三宅都子文, 中川洋典絵) / 『部落史に学ぶ
新たな見方・考え方にたった学習の展開』(外川正明著)

「同和」推進フォーラム 34(真宗大谷派同和推進本
部刊, 2002.3)

ビデオ紹介 「私自身を見てください」(人権啓発ビデオ
制作委員会企画)

『同和はこわい考』通信 154(藤田敬一刊, 2002.2.8)

日記 わたしを揺るがした二週間(下) 野町均

採録 山下力「差別解消 行政依存脱し共同の営みを」
(『朝日新聞』名古屋本社版、01.12.24)

『同和はこわい考』通信 155(藤田敬一刊, 2002.3.1)

採録 『「オカマ」は差別か 『週刊金曜日』の「差別表
現」事件』(ポット出版, 02/2)

ねっとわーく京都 157号(ねっとわーく京都刊行委員
会刊, 2002.2) : 500円

覚せい剤と暴力と無断欠勤と(上) 寺園敦史

ねっとわーく京都 158号(ねっとわーく京都刊行委員
会刊, 2002.3) : 500円

覚せい剤と暴力と無断欠勤と(下) 寺園敦史

はらっぱ 215(子ども情報研究センター刊, 2002.1) :
700円

私の本棚

『センス・オブ・ワンダー』(レイチェル・カーソン著)
/ 『島、登場。つれづれノート10』(銀色夏生著)

はらっぱ 216(子ども情報研究センター刊, 2002.2) :
700円

私の本棚

『土神と狐』(宮沢賢治著) / 『しろいうさぎとくろい
うさぎ』(ガス・ウィリアムズぶん・え)

ヒューマンライツ 166(部落解放・人権研究所刊, 200
2.1) : 525円

連載 走りながら考える 関係性を変える政策創造を 政策
創造ほど面白いことはない 北口末広

ポスト「特措法」時代の出発点 データから考える結婚
差別問題(2) 奥田均

現代史の目(5) 西淀川公害 小山仁示

今月のおすすめ

『二風谷ダムを問う』(中村康利著) / 『朝鮮ハンセン
病史 日本植民地下の小鹿島』(滝尾英二著) / 『メディア
・リテラシーの方法』(アート・シルバブラッドほ
か著) / 『社会福祉の運営 組織と過程』(古川孝順著)
/ 『障害児(者)のセクシュアリティを育む』(「人間
と性」教育研究協議会・障害児サークル編)

図書紹介 『第2期国際身分制研究会報告書』 身分差別、
ケガレ差別、人種差別 柳父章

玲子さんの映画批評 「ムーラン・ルージュ」(バズ・ラー
マン監督) 川西玲子

ヒューマンライツ 167(部落解放・人権研究所刊, 200
2.2) : 525円

連載 走りながら考える11 今、なぜ「人権相談」なのか
人権相談システムが持つ機能 北口末広

現代史の目6 戦争・侵略・加害 小山仁示

ポスト「特措法」時代の出発点 データから考える結婚
差別問題3 奥田均

今月のおすすめ

『現代のテロリズム』(首藤信彦著) / 『学ぶことを学
ぶ』(里見実著) / 『歴史の中で語られてこなかったこ
と おんな・子供・老人からの「日本史」』(網野善彦、
宮田登著) / 『法学セミナー 2002年1月号』 / 『差別語
からはいる言語学入門』(田中克彦著)

玲子さんの映画批評 「スパイ・ゲーム」(トニー・スコッ
ト監督) 川西玲子

ヒューマンライツ 168(部落解放・人権研究所刊, 200
2.3) : 525円

全国水平社創立宣言が描いた部落民像 朝治武

水平社宣言と黒人意識宣言 楠原彰

障害者の人間宣言 青い芝の会「行動綱領」 野嶋スマ子
現代史の目7 第一次大阪大空襲から57年 小山仁示

図書紹介 『衡平運動 晋州の文化を求めて』(金仲燮
著) 高正子

玲子さんの映画批評 「インティマシー」(パトリス・シェ
ロー監督) 川西玲子

ひょうご部落解放 103(兵庫部落解放研究所刊, 2002.
1) : 700円

特集 みんなが知った?ハンセン病

「あの時代は仕方がなかった」のか / 「統治下」でなかつ
た沖縄 「統治下」だった朝鮮 / 「部落差別」と「ハンセ
ン病差別」 岸本真奈美 / 藤本事件 金貞淑 / 「読者の皆
様へ」 辛淑玉

映画評 「秘密」(ヴィルジニ・ワゴン監督) 萩原弘子

書評

『ヒロシマを持ち帰った人々 「韓国の広島」はなぜ生まれたのか』(市場淳子著) / 『火花 北条民雄の生涯』(高山文彦著)

連載 いのちの初夜(上) 北条民雄

部落 685号(部落問題研究所刊, 2002.1): 525円

特集 女性への暴力

わが作品を語る 『病癒えても ハンセン病・強制隔離90年から人権回復へ』 寺島萬里子

本棚 『「人権」による人権侵害 教育・啓発と救済機関を問う』(村下博著) 新谷一幸

文芸の散歩道 『地の群れ』『死者の時』など 井上光晴と部落問題 渡辺巴三郎

部落 686号(部落問題研究所刊, 2002.2): 525円

特集 「人権」学習を考える

井上清先生のこと 部落問題研究所とのかかわりを中心に 東上高志

文芸の散歩道 『汝等の背後より』(中西伊之助著) 朝鮮の被差別民 “白丁” と連帯した知られざる日本人作家 秦重雄

部落 687号(部落問題研究所刊, 2002.3): 525円

特集 大阪府実態等調査・同対審答申批判

地域福祉事業を利用した同対策事業の継続 部落解放同盟の地域戦略 山本敏貞

本棚 『ひとすじの道 解放と連帯を求めて40年』(村崎勝利著) 土井大助

文芸の散歩道 西光万吉の太平洋戦争開戦時の戯曲二篇 住田利夫

部落解放 496号(解放出版社刊, 2002.1): 1,050円

第32回部落解放・人権夏期講座報告書

部落解放 497号(解放出版社刊, 2002.2): 630円

特集 地域福祉計画と人権のまちづくり

映像フリースペース 「ハリー・ポッターと賢者の石」(クリス・コロンバス監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を 21 『四月の野球』(ギャリー・ソト作, 神戸万知訳) 山下明生

本の紹介

『屠場文化 語られなかった世界』(桜井厚・岸衛編) / 『DV 殴らずにはいられない男たち』(豊田正義著) / 『朝鮮ハンセン病史 日本植民地下の小鹿島』(滝尾英二著)

座談会 問題の顕在化こそが出发点 反人種主義・差別撤廃世界会議と今後の人権運動 上村英明, 大谷美紀子, 阿

部浩己, 武者小路公秀, 熊本理抄

輝く人々 エルサルバドル, ニカラグア, グアテマラ, カンボジア ごみ捨て場に生きる 宇田有三

連載 近代の奈落を歩く18 『破戒』の底にあるもの 長野県の被差別部落と水平運動(上) 宮崎学

部落解放 498号(解放出版社刊, 2002.2): 1,050円

部落解放研究第35回全国集会報告書

部落解放 499号(解放出版社刊, 2002.3): 630円

特集 全国水平社80周年

座談会 全国水平社の精神を現代にどう生かすか 中山英一, 川口正志, 組坂繁之 / 全国水平社創立への分水嶺 大日本同胞差別撤廃大会の意味 朝治武 / 水平社創立の歴史的意義 機関誌『水平』を手がかりに 黒川みどり / 全国水平社像の現在 研究史をふりかえって 秋定嘉和 / 「全国水平社を支えた人びと」展を開催 水平社博物館が全国水平社八十周年を記念して 仲林弘次

映像フリースペース 「ピアニスト」(ミヒヤエル・ハネケ監督) 白井佳夫

やっぱり今この本を22 『評伝 佐々木邦 ユーモア作家の元祖ここにあり』(小坂井澄著) 今江祥智

本の紹介

『水平社の原像 部落・差別・解放・運動・組織・人間』(朝治武著) / 『文明開化と差別』(今西一著)

井上清先生と部落解放 村越末男

横浜会議を受け継いで 子どもの商業的性的搾取反対運動と部落解放運動 森実

近代の奈落を歩く19 眼醒めたものは悲しくなかった 長野県の被差別部落と水平運動(中) 宮崎学

ホルモン奉行外伝5 沖縄篇 角岡伸彦

部落解放 500号(解放出版社刊, 2002.4): 630円

特集 狭山異議申し立て棄却を批判する

映像フリースペース 「トゥーランドット」(アラン・ミラー監督) 白井佳夫

東京音楽通信 猪飼野生まれのシャンソン歌手 藤田正

やっぱり今この本を 23 『風の耳朶』(灰谷健次郎作)

山下明生

本の紹介

『部落差別を克服する思想』(川元祥一著) / 『復権への日月 ハンセン病患者の闘いの記録』(全国ハンセン病療養所入所者協議会編) / 『マーティン・ルーサー・キング自伝』(クレイボーン・カーソン編) / 『風の旅人』(牧口一原作・監修)

「人権擁護法案大綱」の問題点 山崎公士

心に障害があるからといって差別しないで 政府の「重大な触法行為をした精神障害者に対する新たな処遇制度（案）」について 八尋光秀

ワクワクさせるマチ水俣 地元から発想するマチづくり 遠藤邦夫

近代の奈落を歩く20 発起の草叢 長野県の被差別部落と水平運動（下） 宮崎学

ホルモン奉行外伝6 牛タン篇 角岡伸彦

『部落解放』項目別総目次（401号～500号）

部落解放運動情報 63号（[部落解放運動・情報]編集委員会刊，2002.1）

こんな本がでています 『歴史の中のジェンダー』（M・ペローほか著）

部落解放研究 144号（部落解放・人権研究所刊，2002.2）：1,000円

特集 各地の住民意識調査結果

築城町調査と啓発の課題 小森哲郎 / 結婚差別に影響を与える要因について 2000年京都市民意識調査から 野口道彦 / 部落問題に関する人権意識調査のあり方と「差別意識論」の課題 大阪府2000年調査の経験から（前編）

佐藤裕

進路を求めて 大阪2000年部落問題調査の概要と特徴

奥田均

周防灘を渡った借金取り 瀬戸内経済圏と被差別部落 布引敏雄

書評

『学校をつくる，地域をつくる 鹿沼発 学社融合のススメ』（栃木県鹿沼市教育委員会編） 菅原寛 / 『三昧聖の研究』（細川涼一編） 森田康夫 / 『屠場文化』（滋賀県教育委員会，反差別国際連帯解放研究所しが編） 西田芳正

部落解放史ふくおか 104号（福岡部落史研究会刊，2001.12）：1,050円

特集 国際社会と人権

人種差別撤廃条約と日本 岡本雅享 / 「アメリカン・スクール・イン・オキナワ」ノート その現状と課題 比嘉康則 / 中国河北省豊寧滿族自治県訪問で感じること あらたな展開と交流の深化を求めて 安 【そ】 龍生 / 日米人権教育交流セミナー2001に参加して 古賀薫

女性史と歴史学習 女性史年表作りを通して 園田久子

近世民衆史の泉41 古文書学習会

書評 『部落の歴史像 東日本から起源と社会的性格を探る』（藤沢靖介著） 竹森健二郎

部落解放ひろしま 56号（部落解放同盟広島県連合会刊，2002.1）：1,000円

特集 差別事件2

輝け命 呉・離婚強要差別事件から学ぶ 得田正明 / インターネット掲示板への差別記載問題の取り組みから 西川和宏 / 県行政にかかわる相次ぐ差別事件 島田健吉 / 法務省に「人権救済」はできない 岡田英治

解放運動の人間像1 われは何をなすべきか 小森龍邦

日本文化の因習を考える13 「仏教教団の因習・習俗」を問う射程5 今に残る本願寺教団の封建的身分制度・慣習（下） 「座次と社会身分・教団内身分」 小武正教

部落解放ひろしま 57号（部落解放同盟広島県連合会刊，2002.3）：1,000円

解放運動の人間像2 求められる人間学的洞察力 小森龍邦 日本文化の因習を考える14 「仏教教団の因習・習俗」を問う射程6 真宗の「精進」が果たした役割 小武正教

部落問題研究 158（部落問題研究所刊，2001.12）：1,111円

特集 2000年部落問題研究の成果と課題

部落問題研究の方向性をめぐって 村下博 / 近代日本社会と差別をめぐる研究動向 2000年の近代部落問題研究を中心に 杉本弘幸 / 部落問題の歴史的研究文献目録（2000年） / 部落問題論における主観的理論の問題性（その2）

「関係」論と「アイデンティティー」論をめぐって

石倉康次 / 「人権教育」論の今日的意義と問題点 2000年を中心に 森田満夫

現代日本の精神的自由の状況を考える 人権教育・啓発法批判を中心に 古川利通

部落問題研究 159（部落問題研究所刊，2002.2）：1,111円

特集 シンポジウム身分的周縁をめぐって

身分的周縁をめぐって 近世史の立場から 倉地克直 / 身分的周縁をめぐって ゆるやかなカースト社会 大山喬平 / 身分的周縁をめぐって 近代史の立場から 鈴木良

良 / 乞食・勸進と芸能者の所有について 吉田伸之 / 「近世の身分的周縁」によせて 塚田孝 / 兵農分離社会の種姓的構造 横田冬彦

泉州の堺「四ヶ所」長吏と郡中非人番 山本薫

部落問題研究所会報 150号（部落問題研究所刊，2002.3）

水平社創立80年を記念して 歴史研究の進展と課題 鈴木良

民権協ニュース 132（在日韓国民主人権協議会刊，200

1.11) : 300円

書籍紹介 『東北アジア共同の家をめざして』(姜尚中著)
民権協ニュース 134(在日韓国民主人権協議会刊, 2002.1) : 300円

書籍紹介 『戦争と罪責』(野田正彰著) 亀井美穂
Rights ライツ 32(鳥取市人権情報センター刊, 2002.1)

今月のいちおし! 『ハンセン病 排除・差別・隔離の歴史』(徳永進・沖浦和光編) 清水祐加

Rights ライツ 33(鳥取市人権情報センター刊, 2002.2)

今月のいちおし! 『私を創ったもの いのちの耀きを綴

る』(土田光子著) 椋田昇一

Rights ライツ 34(鳥取市人権情報センター刊, 2002.3)

本とビデオの紹介

『日本人のこころ』(五木寛之著) / 『幻の漂泊民・サンカ』(沖浦和光著)

今月のいちおし! 『G0』(金城一紀著) 藤田澄代

立命館大学国際平和ミュージアムだより 24号(立命館大学国際平和ミュージアム刊, 2001.12)

ミュージアムおすすめの一冊 『歴史教育と教科書 ドイツ、オーストリア、そして日本』(近藤孝弘著)

新聞書評欄等 (2002年1月~3月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 2053号(解放新聞社刊, 2002.1.21) : 80円
今週の1冊 『マルクーハン』(W・テレンス・ゴードン著)

解放新聞 2054号(解放新聞社刊, 2002.1.28) : 80円
今週の1冊 『テレビ制作入門 企画・取材・編集』(山登義明著)

山口公博が読む今月の本

『秀吉と利休』(野上弥生子著) / 『本よみの虫干し 日本の近代文学再読』(関川夏央著) / 『幻の漂泊民・サンカ』(沖浦和光著)

解放新聞 2055号(解放新聞社刊, 2002.2.4) : 120円
今週の1冊 『男だけの育児』(ジェシ・グリーン著)

解放新聞 2056号(解放新聞社刊, 2002.2.11) : 80円
今週の1冊 『ハンセン病 国賠訴訟判決』(解放出版社編)

解放新聞 2057号(解放新聞社刊, 2002.2.18) : 80円
映画 「友へ チング」(クァク・キョンテク監督)

今週の1冊 『ぼくらが出会った希望のかたち。新聞記者が見つけた無名の人々のメッセージ』(中日新聞・東京新聞21世紀プロジェクト編著)

解放新聞 2058号(解放新聞社刊, 2002.2.25) : 80円
今週の1冊 『人間破壊列島』(斎藤貴男著)

山口公博が読む今月の本

『霊と肉』(山折哲雄著) / 『麻雀放浪記(1)青春編』(阿佐田哲也著) / 『お茶のなんでも小事典』(O-CHA学構想会編)

解放新聞 2059号(解放新聞社刊, 2002.3.4) : 120円
理論のページ 全国水平社創立記念を歴史化する 朝治武

解放新聞 2062号(解放新聞社刊, 2002.3.25) : 80円

今週の1冊 『アフガン 乾いた大地 戦火の中の民』(丸山直樹著)

解放新聞改進黨 291号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2002.1)

私の本棚 146 『大語録 天の声地の声』(永六輔著) 長谷川良知

解放新聞改進黨 292号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2002.2)

私の本棚 147 『戦後思想を考える』(日高六郎著) 松田敏明

解放新聞東京版 542号(解放新聞社東京支局刊, 2002.2.15) : 90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 「折り梅」(松井久子監督)

解放新聞東京版 544号(解放新聞社東京支局刊, 2002.3.15) : 90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評 「ロード・オブ・ザ・リング」(ピーター・ジャクソン監督)

なら解放新聞 684号(奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2002.1.25) : 140円

摂食障害ってなんやろ 11 回復の第1歩 すー。

なら解放新聞 685号(奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2002.2) : 140円

ある点検糾弾会の光景 藤田敬一

摂食障害ってなんやろ 12 すー。

なら解放新聞 686号(奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2002.3) : 140円

摂食障害ってなんやろ 13 すー。

京都部落問題研究資料センター

第2回資料説明会を開催します

京都部落問題研究資料センターでは、前身の京都部落史研究所から受け継いだ図書・資料などを数多く所蔵しています（2002年3月末現在で図書15,838冊・近世資料7,737点・部落関係論文5,000点など）。これらの図書・資料を教育や研究に生かしていただくために、所蔵資料の全体像や必要な資料の検索方法などの説明会を開催します。

部落問題・人権問題を研究している研究者・学生の方々、またこれらの問題に関心をもたれている皆様のご参加をお待ちしています。

参加希望の方は、当日までに当資料センターまで電話・ファックス・電子メール <qm8m-ndmt@asahi-net.or.jp> でご連絡ください。

日時：6月15日（土） 午後2時～4時

場所：京都部落問題研究資料センター

参加費：無料

事務局より

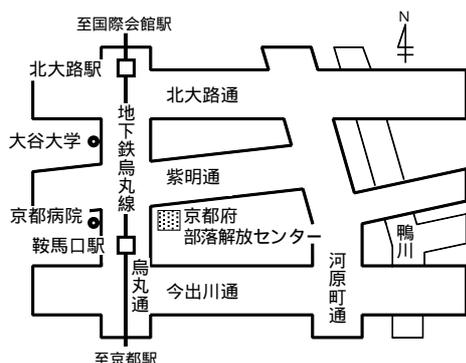
5月から6月にかけて新しい取り組みを予定しています。今号の4頁、20頁でお知らせしていますので、是非ご参加ください。また、「今後こんな取り組みを...」というご要望がありましたらおきかせください。

その新しい取り組みの一つとして「**メールマガジン**」の発行を始めました（隔週発行予定です）。「??メールマガジン??」という方もおられるかと思いますが（私もついこの間まで???でした）、「電子メールで届く、新聞・雑誌のようなもの」ということです。電子メールのアドレスをお持ちの方は、当資料センターのホームページから登録できるようになっていますので、是非登録してください（もちろん「登録解除」もできます）。登録すれば、発行の度にメールマガジンが届く仕組みになっています。中味は読んでのお楽しみということで...

今号の発行が大変遅れましたことをお詫びいたします。

Memento 8

発行日 2002年4月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151

京都市北区小山下総町5-1
京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

U R L <http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時
(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分